

平成 30 年度第 1 回小牧市地域包括支援センター運営協議会 議事録

日 時	平成 30 年 5 月 17 日 (木) 15 時 00 分～17 時 00 分
場 所	小牧市役所 東庁舎 4 階 本会議用控室
出席者	<p>【委員】 (敬称略)</p> <p>岩満 賢次 岡山県立大学准教授 関本 洋一 小牧市医師会代表 高木 康司 小牧市歯科医師会代表 福澤 広 小牧市薬剤師会代表 社本 久美 公益社団法人 愛知県歯科衛生士会代表 吉元 寛子 小牧市介護支援専門員連絡協議会代表 田中 秀治 一般社団法人 愛知県社会福祉士会代表 野口 弘美 小牧市保健センター 沖本 榮作 小牧市民生・児童委員連絡協議会代表 坂東 抄子 小牧市介護相談員代表</p> <p>【事務局】</p> <p>山田 祥之 市長公室地域協働担当部長 兼 健康福祉部 地域福祉担当部長 伊藤 俊幸 健康福祉部次長 江口 幸全 健康福祉部 地域包括ケア推進課長 山本 格史 健康福祉部 長寿・障がい福祉課長 伊藤 京子 健康福祉部 介護保険課長 倉知 佐百合 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係長 若山 愛美 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係主事 三嶋 直美 南部地域包括支援センターケアタウン小牧管理者 尾崎 雅代 小牧地域包括支援センターふれあい管理者 宮越 晴美 味岡地域包括支援センター岩崎あいの郷管理者 瀬口 幸恵 篠岡地域包括支援センター小牧苑管理者 金田 泰丈 北里地域包括支援センターゆうあい管理者</p>
傍聴者	2 名
配付資料	<p>次第</p> <p>資料 1 平成 30 年度 小牧市地域包括支援センター 事業計画 資料 2-1 平成 30 年度 小牧市地域包括支援センター事業計画書 一覧 資料 2-2～2-6 各地域包括支援センターの平成 30 年度事業計画書 資料 3-1 地域包括支援センターの事業評価について (案) 資料 3-2 地域包括支援センター 事業評価スケジュール (案) 資料 3-3 地域包括支援センター事業 自己評価表 (案) 資料 4 介護予防プラン作成委託業者の承認案件に係る持ち回り審議結果について</p>

主な内容

<p>1. 開会 (1) あいさつ</p> <p>2. 議事 (1) 小牧市地域包括支援センターの平成 30 年度事業計画について 【I 包括的支援事業】</p>

・事務局より、資料1・資料2-1～2-6を用いて説明。

・質疑、主な意見は以下のとおり。

○福澤委員

・総合相談業務について、それぞれの包括において、いろいろな相談会を開かれているが、相談件数などは把握し、報告をしているのか。

○事務局

・本日お配りしたA3の参考資料に総合相談支援事業の件数を記載しているところである。

・市としては、こういった内容の相談があったのかを、毎月、各包括から報告をいただいている。

○福澤委員

・相談事業だけでなく、啓発活動は行えているか。

○事務局

・参考資料に記載はないが、各包括からは月報という形で、毎月どこへ訪問に行ったかという報告をいただいている。

・総体的に直接、件数と結びつくかわからないが、施設から出ていくという意味では、積極的に動いていただいているという印象を持っている。

○福澤委員

・啓発活動は大変良いことだと思うが、参加人員が低迷しているのであれば、方法等を含めて考えなければならないと思う。

・そこら辺を十分把握した上で、より有効的な活動をしていただきたい。

【Ⅱ介護予防ケアマネジメントの実施】

・事務局より、資料1・資料2-1～2-6を用いて説明。

・質疑、主な意見は以下のとおり。

○高木委員

・インフォーマルサービスの活用を推進するという発言があったが、インフォーマルサービスの一覧みたいなものは用意しているのか。

○事務局

・地域の集いの場として、サロンや老人クラブなど様々な活動がある。

・できるだけ見やすい形で一覧にすることを心がけているが、全体として1枚で情報が集約できていないのが現状である。

【Ⅲ介護予防推進事業】

・事務局より、資料1・資料2-1～2-6を用いて説明。

・質疑、主な意見は以下のとおり。

○野口委員

・各包括の活動内容について、例えば、南部包括では「介護予防対象者を把握する」という表現になっているが、北里包括では、「把握し、意向を聞きながら社会資源へのマッチング支援を行う」という表現になっている。

・包括において、状況は把握していくと思うが、その後の支援は考えているのか。

○事務局

・記載内容にばらつきはあるが、全ての包括において、基本的には把握をして、その後必要な支援につなげる動きを実施している。

○野口委員

・具体的にどのような支援につなげているのか。

○事務局（味岡包括）

- ・昨年度に引き続き、介護予防把握事業として、各圏域において戸別訪問を行う中で、必要な方については、予防教室等につなげていく。
- ・また、地域に不足している資源や担い手につなげていけるような活動を、現在検討しているところである。

○野口委員

- ・先ほど予防教室という話があったが、メニューはあるのか。

○事務局

- ・包括独自のメニューや保健センター・老人福祉センターで開催している教室、また、市の出前講座を活用していく中で、支援につなげているところである。

○野口委員

- ・介護予防リーダーという記載があるが、現在、何名いるのか。

○事務局

- ・介護予防リーダーについては、28年度までは愛知県で実施していた講座である。
- ・29年度以降は、愛知県において実施されないとのことであったため、市の事業として実施し、25名の方に受講していただいている。

○野口委員

- ・そういった方に活躍していただきながら、事業を進めていけると良い。

○事務局

- ・半分以上の方が、地元のサロン等で既に主体的な活動に取り組んでいただいている。

【IV地域包括ケアシステムの推進】

- ・事務局より、資料1・資料2-1～2-6を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○田中委員

- ・個別ケア会議は、各包括で開催されていると思うが、南部と篠岡では、圏域でも地域ケア会議を開催されているということで、どのように進められているのか、また、どのような効果が得られつつあるのかお聞きしたい。

○事務局（南部包括）

- ・南部包括は、29年度に開設した包括ということもあり、なかなか圏域の実情がまだ把握ができていないというところがあるため、それを把握するという意味もあって、圏域で開催をしているところである。
- ・個別地域ケア会議を通して、家族からの支援が難しいケースが多く、近隣住民の方など身近な方の支援が必要となってきたということを共有できた。
- ・参加していただく区長や民生委員、老人クラブの方々からは、このような会議をしているということを知っていただく中で、「こういうことをみんなが考えてくれているんだ」といった感想をいただいている。

○沖本委員

- ・南部包括については、昨年度の会議において、小牧包括からしっかり引き継ぎをしていただくようお願いしたところである。
- ・参考資料の数字を見ると、他の包括と遜色ないように運営していただいているように思うが、住民の認知度が低いということから、今後も住民への周知が重要だと考える。
- ・老人会やサロンにおいて、様々な活動を行っていただきたい。
- ・民生委員の会議には、どこの包括も出席しているのか。

○事務局

- ・回数にばらつきはあるが、毎回出席させていただいているところもある。
- ・特に篠岡では、民生委員の会議が終わった後に、勉強会を開いている。

○沖本委員

- ・非常にいい取り組みであるため、他の包括も毎回出席していただければと思う。

【V認知症総合支援事業】

- ・事務局より、資料1・資料2-1～2-6を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○福澤委員

- ・認知症の方は、服薬している方が多いと思う。
- ・服薬に関して、誤った薬の服用、あるいは残薬といったことがある中で、これらに関して、薬剤師として、何らかの関与というのか、協力をしていきたいと考えている。
- ・これらの結びつきについて、市として何か示唆するところはあるか。

○事務局

- ・次の在宅医療・介護連携にも関わってくるところだが、今言われたような生活上の支援が必要な方については、地域の方も含めた多職種で、ある意味、見守り的な活動も必要になってくると考えており、今のような具体的な事例を通して、そういった仕組みを検討するような場をつくっていきたい。

○福澤委員

- ・疾病の悪化も考えられるため、早い段階で是非ご検討いただきたいと思う。
- ・その折は、薬剤師会もお呼びいただければ、ご協力させていただく。

○高木委員

- ・昨年の会議において、認知症地域支援推進員の方のことをお尋ねした。
- ・その時に、認知症地域支援推進員は、特に認知症や服薬に詳しい方を配置しているわけではないというお答えだったと思うが、認知症地域支援推進員の方に対する研修について、昨年度の実績と今年度の予定をお聞きしたい。
- ・昨年度、味岡包括より認知症見守りステッカー事業の話をお聞きしたが、どのような状況か。

○事務局

- ・認知症地域支援推進員の研修について、29年度は、愛知県が開催した研修に出席をいただいた。
- ・今年度は、愛知県の研修に加え、国が開催する認知症初期集中支援チームの研修を受けていただく予定である。

○事務局（味岡包括）

- ・認知症見守りステッカー事業は、昨年11月から味岡包括においてモデル的に事業を開始したところである。
- ・はっきりとした数字は、現在分からないが、昨年度10件ほどの登録があった。
- ・今年度は、味岡圏域だけではなく、他の圏域の方の登録もあり、現在は約15件の登録があり、徐々に件数が伸びてきている状況である。

【VI在宅医療・介護連携推進事業】

- ・事務局より、資料1・資料2-1～2-6を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○福澤委員

- ・こまきつながるくん連絡帳について、現在の登録と利用状況の件数をお聞きしたい。

○事務局

- ・本年4月末時点で登録いただいている機関が、医科診療所、歯科診療所、薬局、介護サービス事業所等を合計して83の施設に登録いただいている。
- ・ケースとして、20人の患者さんの登録があり、こまきつながるくん連絡帳を活用して、支援をしているところである。

○福澤委員

- ・数字を聞くと、まだ心寂しいと思うため、一層の努力をお願いしたい。
- ・インターネットがあまり得意ではない方に対しては、別のツールも考える必要があると個人的には思っている。
- ・こまきつながるくん連絡帳は、活字が小さいため、今後、改善する機会があればご検討いただきたい。

○田中委員

- ・現場では、医療分野をはじめ、他分野との連携が非常に難しいと思っている。
- ・南部包括では、資料2-1の13ページに「医療・介護・障がい分野とのネットワーク活動」について、また、味岡包括では、資料2-1の11ページに「認知症対応能力の向上を図るための研修」という記載がある。
- ・病院等にアクションをかけていくと思うが、何か具体的に考えていることはあるか。

○事務局(南部包括)

- ・南部包括では、去年1年間の事例の中で、高齢者だけの問題ではないことが多かった。
- ・その中で、医療はもちろんのこと、障がいとも協働していかないとなかなか問題解決できないことから、勉強会を開催していきたいと思っている。
- ・昨年度は、ケアマネジャーと医療機関の方が、顔を合わせる機会をつくろうということで、研修会を3月に実施した。
- ・そこで実施したアンケートでは、ケアマネジャーより、障がいの分野とつながってほしいという意見が多かった。
- ・包括と同じようにケアマネジャーも他分野の方とつながりたいと感じていると分かり、勉強会の開催を検討しているところである。

○事務局(味岡包括)

- ・味岡包括では、認知症に対する能力向上について、具体的な計画はこれから検討するところだが、医療機関や事業所の意見を聞きながら、研修会を開催していきたいと考えている。
- ・また、味岡包括でも、南部包括と同様に、障がいと多問題のケースや、障がいから介護保険への年齢的な移行等の連携が増えてきていることから、まずは顔の見える関係ということで座談会を開催し、その状況を踏まえて、勉強会、事例検討会に移行していきたい。

○田中委員

- ・大変だと思うが、他分野の方々への働きかけというのは大切であるため、お願いしたい。

○高木委員

- ・わた史ノートについて、書き込むのが難しいところもあるが、何か工夫はあるのか。

○事務局

- ・全ての項目を書き込む必要はなく、書けるところから書いてもらえればと考えている。
- ・引き続き、市民へのわた史ノートの普及啓発に努めていく。

【Ⅶ地域包括支援センター独自の重点取り組み事項】

- ・事務局より資料2-1～2-6を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○高木委員

- ・当初地域包括支援センターが設置されたころに比べると業務の量が膨大に増えてきている中で、職員の数としてはそこまで増えていないと思う。
- ・国は、何でもかんでも地域包括支援センターにと盛り込んできており、事業についても地域住民全員が対象になってきていることもあり、本当に精力的、献身的に運営をしていただいていると思うが、実際問題どうか。

○事務局（南部包括）

- ・本日の参考資料の中にもあるが、要支援の方等のプラン作成について、以前だと、約半分を委託に、半分を直営で実施していた。
- ・その他の事業を進めていくには、直営でプランをたくさん持つことが難しくなっており、7～8割が委託をさせていただいている状況であり、そこで、業務の調整をしている。

○事務局（小牧包括）

- ・職員の力量や、包括の前に配属されていた職種も様々であるため、担うべきものを身につけながら、包括としての対応をチームとして連携しながら行っているが、職員も年々変わるため、管理者として気をつけているところである。

○事務局（味岡包括）

- ・味岡圏域については、高齢化率は市内でも真ん中くらいだが、要支援等の方のプランを多く抱えた中で他の業務を行っており、職員の比重はきつくなっていると感じている。
- ・職員の経験年数、年齢、知識が様々な中で、資質の向上を目指し切磋琢磨しているところだが、厳しい状況というのは変わらない。
- ・職員募集は常に行っているが、なかなか職員が集まらない。

○事務局（篠岡包括）

- ・篠岡圏域の特徴として、人口減少と高齢化が一気に進むというような状況がある。
- ・今の業務がかなり増えてきており、包括の中で声をかけ合いながら、お互いの状況を確認している。
- ・その中で地域住民のネットワークに助けられているというのが現状である。

○事務局（北里包括）

- ・総合相談の件数が増えてきている。
- ・北里包括は、現在、職員5名体制で行っているが、その中でも保健師が2名いるというところを活かし、連携をとりながら業務の状況もバランスを見て行っている。

○高木委員

- ・大変な仕事で、いっぱいいっぱい以上のところでやっていただいていると思うが、バーンアウトすることがないように支え合い、市も協力しながら頑張っていただきたい。

○田中委員

- ・去年の会議でも話があったが、篠岡包括の総合相談の件数について、他の圏域と比べ差があるが、拾い方は統一されているのか。

○事務局（篠岡包括）

- ・以前も何回かこの指摘を受けており、何とか改善していこうとしているところだが、カウントの仕方が悪いためか、しっかりカウントができていないのが現状である。
- ・実際の総合相談の件数は、この参考資料の件数より、とても多い。

（２）地域包括支援センターの事業評価について

- ・事務局より、資料3-1～3-3を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○福澤委員

- ・自己評価表は、国等においてベースがあるのか。

○事務局

- ・法改正に基づき、国において一定の基準が示されており、それを参考にしている。
- ・また、他市等で公表されているものを参考に作成した。

○福澤委員

- ・評価の内容について、今後、国として改善又は見直しが行われると思うが、市としても反映させていくのか。

○事務局

- ・実施する中で改善をしていきたいと考えている。

○福澤委員

- ・見直しの期間について、国が示す方針に基づいて行うのか、個別に考えていくのか。

○事務局

- ・国の方針に基づいて行うところになるが、必要に応じて、改善をしていきたい。

○沖本委員

- ・委託先法人の経営状況を評価する項目がないが、問題ないか。

○事務局

- ・経営状況については、毎年秋頃に決算状況をこの運営協議会へ提出し、協議をしていただいているところである。

○岩満会長

- ・先ほどの説明によると、評価していただいたものが10月ごろにこの会議に出てくることになると思うが、自己評価表と行政評価と別々に出てくるのか、最終的なものが出てくるのか。

○事務局

- ・皆様にできるだけ見やすい形だと考えているが、提示の仕方については、今後、検討させていただきたい。

○岩満会長

- ・その後に公表されていくということだが、数字だけがひとり歩きしないように行わなければならないと思う。
- ・評価表について、最低限このぐらいできたら良いというところを標準にし、あとはできたら良いところを評価してあげられるような評価表になると良い。

3. 報告

(1) 介護予防プラン作成委託業者の承認案件に係る持ち回り審議結果について

- ・事務局より、資料4を用いて報告。

○高木委員

- ・審議結果について、介護支援専門員をやっている限りは、更新研修の受講は当たり前の話であり、これはケアマネジャー個人の話であって、他市町村での実績とは別にしたほうが良いのではないか。

○田中委員

- ・更新を忘れる方もいるため、記載する場所がここでいいかは別として、個人的には、毎回確認をしていただけると良い。

○高木委員

- ・「受講歴あり」という書き方ではなく、「有効年月日を確認している」等の記載のほうが良いのではないか。

○事務局

- ・記載の仕方については、今後検討していきたい。

4. 閉会